

(特活) 国際協力NGOセンター／(財) 日本ユニセフ協会共同プログラム
「南」の子ども支援NGO能力強化5ケ年計画」第2年度 国内研修を受講して

理事・非専従スタッフ(広報担当) 佐々木真紀子

2月から3月にかけて行われた、週1回3時間の講義が4回とその後1泊2日の合宿、という上記の研修に参加してきました。5ケ年計画の2年目である本年度のテーマは「組織改善」。HANDSは子どものみを支援対象にしているわけではないので、昨年度は参加しなかったのですが、テーマに興味を持ったからです。

一言で「組織改善」と言っても、アプローチ方法はさまざまです。団体のミッション&ビジョン(使命と目標)を見直す、何故「南」の子どもを支援するのか考え直す、会員を増やしたい、お金(予算)の問題、理事会が機能していない、既存会員へのサービス……。そんな中、初日の講義は「組織分析」でした。そうですね。自分の団体のことを良く知らなければ、より良くすることもできません。しかし、そんなあたりまえのことに気づかず、今までは、5月に横浜でバザーがある、10月に日比谷公園でフェスティバルがある、そのたびに行き当たりばったりで準備をしてきました。今年は、何故今これをやるのか、しっかり理念を持ってがんばっていきたいと思います。

さて、その「組織分析」ですが、HANDSの強み、弱み、言い換えれば良いところ悪いところを挙げることから始めます(どちらもたくさんありました)。同時に外的要因でHANDSにとって機会をもたらすこと、脅威となることも挙げます。例えば、社会がNGOに理解を示してきたことは良い機会、でも日本の税制で寄付に伴う免税制度が厳しい状況なのは脅威ですね。この4つをからませて、より重要なもの、より緊急度が高いものから今後の活動方針を導き出すわけです。

全講義と合宿に参加して多くのものを得ましたが、私にとって一番新鮮だったのはこの講義です。問題があれば、きちんとその原因を突き止めて認識すること。広げて言ってしまうと、人の行動には理由がある。NGOの場合、それが「善いことをしたい」「貧しい隣人を助きたい」から出発するのは当然ですが、「何故自分は善いことをしたいのか、それは本当に他者にとって善いことなのか」とか「何故自分は貧しい隣人を助きたいのか、そもそも隣人は本当に貧しいのか、貧しいとすれば何故貧しいのか」について考えて続けていけば、より深い国際協力につながると思います。考えるための情報は、さまざまところに転がっています。

年間70億円を扱うNGOから20万円の団体まで9団体、延べ30名以上の方々と出会うことができた研修に参加し、他団体の率直な意見や状況を聞くことができて本当に良い機会でした。会員の皆さんもぜひこのような研修に参加されることをお勧めします。(ボランティアスタッフとして各種研修参加ご希望の方は事務局までお知らせ下さい)

< 現 地 短 信 >

初志貫徹はできなかったけれど、コミュニティ指導者として復帰のチャリタとロウエンダ

再び小学校の教壇にと、新潟県国際交流協会の助成金を受けて2年間大学で不足単位取得に励んだ二人でしたが、この3月、正式な小学校教師資格取得の見込みが立たず学業中断を決めました。5月からサムラングでそれぞれ幼児教育と大人の識字教育にあたり、週末は新しい支援コミュニティ、バラクの住民組織化を手伝う予定です。

立派な小屋も完成して、ブラクールで雌10匹に雄1匹の山羊飼育が始まりました

山羊ミルクの給食開始を楽しみに、子ども達はえさ草刈りや小屋の掃除に励んでいます。住民も現金収入源の一つとして有望なこの山羊飼育技術習得に意欲的です。

助成決定で、活気が戻ったモスン教育(前号参照)現場、テバツとバサグノフォクの子ども達

1月末、資金不足で継続困難のSOSが届いたレイクセブ町の中途退学児童対象「民族の言葉で民族の知恵と技術を学ぶ」事業に、ひろしま・祈りの石国際教育交流財団の助成が決まりました。FOTからの継続事業です。

簡易水道建設工事(FIDR助成)が完了したミアソンとシラルでは・・・

乾季(1-5月)の灌漑が可能になって、シラルでは自給用に家の周りで野菜栽培を開始し、ミアソン寮では新入生を迎えるための2段ベッド追加工事が始まりました。

「子豚1匹分2,400円を借りて8ヵ月後7,200円で売り、まずは500円返す」プロジェクトが始まります

資金がなくてあきらめかけていたアトゥモロック母親クラブの小口資金貸付(マイクロクレジット)支援事業。4月中旬に神奈川県ファイバーリサイクルネットワーク(FRN)から収益金のご寄附をいただき実施できることになりました